

Briefing Transcription

|| 2027年1月期第1四半期 決算説明会文字起こし ||

ミライアル株式会社

4238 東証スタンダード 化学

[企業情報はこちら >>>](#)

2026年6月24日(水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03
■ 質疑応答	20

■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ 同社の優位性は、主力のプラスチック成形事業における半導体シリコンウェーハの輸送・保管用樹脂容器 (FOSB* など) で世界トップクラスのシェアである。プラスチックの金型設計から精密成形、自動化装置開発までを同社単独で行う技術力と、国内外の主要ウェーハメーカーとの強固な取引基盤が大きな優位性となっている。

* FOSB (Front Opening Shipping Box) とは、300mm (12 インチ) のシリコンウェーハを製造工場間や出荷時に安全に搬送・保管するためのプラスチック製密封容器のこと

- ・ 2027年1月期第1四半期連結決算は、売上高が前年同期比26.4%増の39.25億円、営業利益が同121.2%増の2.39億円、経常利益が同119.0%増の2.58億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同87.2%増の1.93億円となり、売上面、利益面とも会社計画を上回った。

売上面ではプラスチック成形事業がAIを中心に半導体市場の需要が回復し、ウェーハ在庫調整は底打ちした模様。成形機事業はHEV (ハイブリッド自動車) 回帰への方向性が明確になった自動車業界向けの需要は回復の兆しがみえ、部品に関しても安定供給される状況が維持された。利益面では増収効果により粗利率が1.5ポイント改善し、19.7%まで改善したことが奏功した。

- ・ 2027年1月期連結業績予想に関しては、同第2四半期累計の会社予想のみ開示している。売上高が前年同期比25.7%増の79.70億円、営業利益が同43.7%増の4.80億円、経常利益が同38.1%増の5.00億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同26.9%増の3.60億円を見込む。プラスチック成形事業は半導体市場においてAIを中心とした先端品の旺盛な需要が続こう。成形機事業は自動車業界のHEV回帰への方向性が明確になってきたことにより、特に海外での動きが活発化の兆しがあり、受注状況は緩やかな回復を見込んでいる。

- ・ 中期成長戦略の数値目標 ---2029年1月期のROE11.1%へ、株主還元を強化

中期成長戦略の最終年度の2028年度 (2029年1月期) に、売上高239億円、営業利益47億円、営業利益率20.0%、ROE11.1%を目指す。2026年1月期から、新たに配当性向の指標を「総還元性向またはDOE」に見直し、株主還元を強化し、「総還元性向30%またはDOE2%」のいずれか高い方を下限とした安定配当とする方針とした。これにより、PBR1倍を恒常的に達成し、中長期的な企業価値の最大化を目指す意向である。

- ・ 既に足掛かりを得ている分野を起点に成長への先行投資 2029年以降の第3創業期に向けて、中期成長戦略に沿ってシリコンウェーハ搬送容器以外の第2、第3の柱を構築するため、時代に必要とされ、新たな成長が見込める事業分野において、強いブランドバリューを持つ企業に対し、先行投資としてキャッシュを配分しM&Aを実行する。

M&A案件として4月30日、布谷船用計器工業(本社:大阪府大阪市)の全発行済株式を取得した。同社は、磁気コンパスをはじめとする船用航海計器の分野において長年の技術と実績を有している。

■ 出演者

ミライアル株式会社
代表取締役社長

兵部 匡俊様

ミライアル株式会社
取締役執行役員 CFO

羽山 哲生様

決算説明

●司会

これよりミライアル株式会社 2027年1月期第1四半期決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中、決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。開催にあたりまして、各種お願い、ご連絡事項を申し上げます。本説明会は、決算報告後に質疑応答のお時間を設けております。質疑応答はコントロールパネルのQ&A機能よりテキスト形式にてお受け付けいたします。お時間の関係上、すべてのご質問にお答えできない場合もございます。あらかじめご了承ください。なお、チャット機能が使えませんが、何かお困り事がございましたらQ&A機能にてお知らせください。

それでは、これより2027年1月期第1四半期決算説明会について、代表取締役社長の兵部匡俊及び取締役執行役員 CFO の羽山哲生よりご報告いたします。

■ミライアル 兵部様

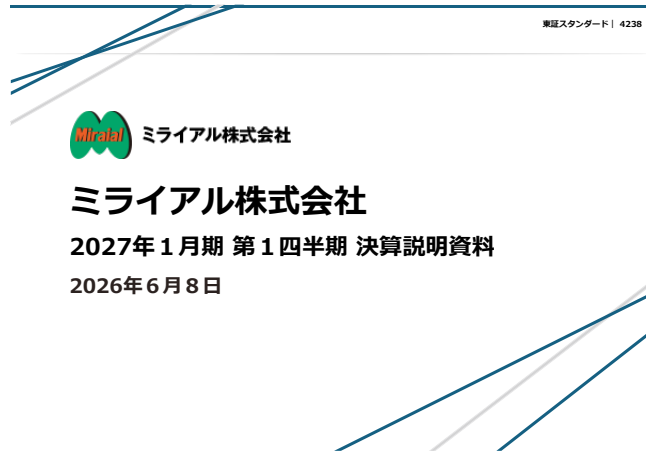
代表取締役社長の兵部でございます。日頃より弊社へのご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

通常、弊社の決算説明会は、原則、中間決算発表時の9月と、本決算発表時の3月の年2回開催しております。今後も原則として年2回の開催としていく予定でございます。一方で、ミライアルは2029年1月期末までの5カ年中期成長戦略に現在取り組んでおりまして、間もなく折り返しの中間地点を迎えます。残り約2年半、この期間で当初の目標を達成するため、事業成長という観点では、計画通りの設備投資や、先日開示させていただきました通りのM&Aの実行、そして資本政策・財務戦略につきましては、自己株式の消却と取得といったことを矢継ぎ早に手を打っております。

中期成長戦略に基づきまして、ミライアルはスピード感を持って大きく企業としてのあり方を変えようと動いております。そのため、開示内容が比較的多かったこのタイミングで、ミライアルの「今」と「これから」をリアルタイムでご説明することが適切であると判断いたしまして、今回は臨時的に第1四半期の決算説明会を設けさせていただきました。

また、今回から私と CFO の羽山とで適宜説明箇所を分担する構成に変更いたしまして、株主・投資家の皆様により分かりやすいご説明を目指してまいります。

決算説明



■ミライアル 兵部様

改めまして、お忙しい中、ミライアル株式会社 2027年1月期第1四半期決算説明会をご視聴いただきまして、誠にありがとうございます。昨日6月8日に開示いたしました決算説明資料に基づきまして、まず私の方からご説明申し上げます。

目次



- 01 - 会社概要
- 02 - 事業内容
- 03 - 2027年1月期第1四半期決算概要
- 04 - 2027年1月期第2四半期連結業績予想
- 05 - 中期成長戦略への取り組み
- 06 - 企業価値向上に向けた新たな取り組み
- 07 - 配当について

Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 2

■ミライアル 兵部様

本日はご覧の7項目のご説明となります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

01- 会社概要



商号	ミライアル株式会社
資本金	11億1,100万円
代表者	兵部 匡俊
設立	1968年7月
所在地	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-24-1 ニッセイ池袋ビル
連絡先	03-3986-3782 (代表)
従業員数	323名 ※2026年1月31日現在 (単体)
事業内容	高機能樹脂製品の開発および製造販売 金型の製造販売 その他事業

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 3

■ミライアル 兵部様

ミライアルの会社概要でございます。ミライアルは1968年設立でございますので、間もなく2028年に設立60周年を迎える会社でございます。先ほど申し上げました中期成長戦略は、このミライアルの還暦をめがけてのものでございます。

02- 事業内容



Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 4

■ミライアル 兵部様

続きまして、事業内容です。ミライアルはご覧の2つの事業で構成されておまして、それぞれの売上高規模はご覧の通りでございます。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

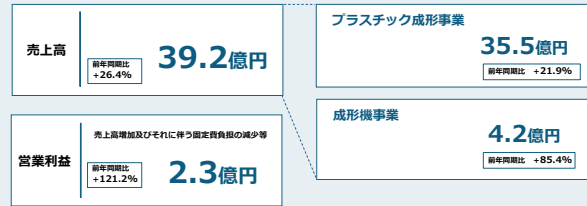
決算説明

03-2027年1月期第1四半期決算概要



経営成績の概況

- 新たなステージでの長期ビジョンを実現する第3創業期に向けた土台作りの5年として、2028年度をターゲットとする5か年の中期成長戦略2028を一年前策定しました
- 半導体市場の成長と市場シェア拡大を見据え、安定供給できる体制を構築するため、生産能力増強や自動化等による効率化のための投資を進めています



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 5

■ミライアル 兵部様

経営成績の概要でございます。両事業とも前年同期比で増収となりまして、営業利益も増益となりました。半導体市場は、中東情勢をはじめとした地政学リスクに備えるための在庫確保の動きを理由に活況となっているという見方と、AI需要増加を背景とした次元の違う成長軌道に入りつつあるという見方、これらが存在しておりまして、見極めが難しい面もございます。しかし、少なくともウェーハの在庫調整につきましては、底を打ったとの判断が妥当と言えるような状況になったと思っております。また、自動車業界も、ハイブリッド、EVへの配置という方向性がある程度明確になってまいりましたので、その安心感からか、設備投資が再開される兆しがございます。

03-2027年1月期第1四半期決算概要



損益計算書 (P/L)

(百万円)

	2026年1月期		2027年1月期	前年同期比
	第1四半期	通期	第1四半期	
売上高	3,106	12,572	3,925	+26.4%
営業利益	108	511	239	+121.2%
経常利益	117	590	258	+119.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	103	606	193	+87.2%

Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 6

▲ミライアル 羽山様

6ページより、羽山からご説明させていただきます。当第1四半期は、売上高は39億2,500万円、前年同期比プラス26.4パーセント、プラス8億1,900万円の増収。営業利益につきましては2億3,900万円、前年同期比プラス121.2パーセント、プラス1億3,100万円の増益。経常利益につきましては2億5,800万円、前年同期比プラス119.0パーセント、プラス1億4,100万円の増益。親会社株主に帰属する当期純利益は1億9,300万円、前年同期比プラス87.2パーセント、プラス9,000万円の増益と、全体を通じて増収増益の決算となりました。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

03-2027年1月期第1四半期決算概要



売上高・営業利益の四半期推移



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 7

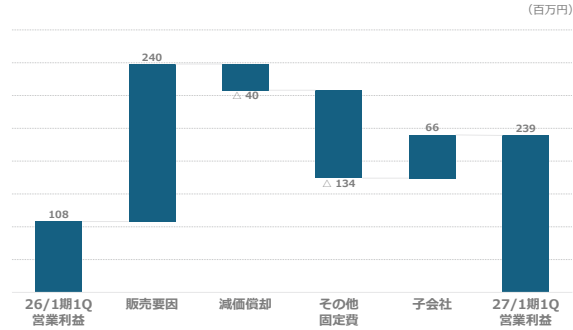
▲ミライアル 羽山様

7ページは、売上高・営業利益の四半期推移です。当第1四半期につきましては、売上高としては2024年1月期第1四半期以降で最高の売上高となりました。営業利益としましては同4番目に高い水準で、前期と比べますと、いずれの四半期よりも高い水準となりました。

03-2027年1月期第1四半期決算概要



営業利益の増減要因



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 8

▲ミライアル 羽山様

8ページは、営業利益の増減要因のウォーターフォールチャートとなります。前年同期に比べて、販売の増加による増益がプラス2億4,000万円、減価償却とその他固定費の増加による減益がマイナス1億7,400万円、子会社での増益がプラス6,600万円あり、合計でプラス1億3,100万円の増益となりました。営業利益率につきましては6.1パーセントということで、前年同期の3.5パーセントに比べてプラス2.6ポイント改善いたしました。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

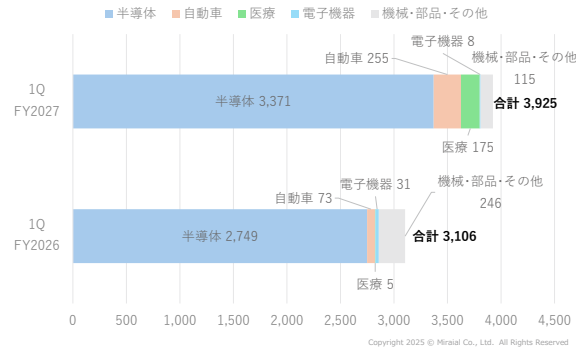
決算説明

03-2027年1月期第1四半期決算概要



市場別売上高の内訳

(百万円)



▲ミライアル 羽山様

9ページは市場別売上高の内訳です。半導体が33億7,100万円と前年同期比でプラス6億2,200万円の増収。自動車につきましては2億5,500万円と前年同期比でプラス1億8,200万円の増収。医療につきましては1億7,500万円と前年同期比でプラス1億7,000万円ということで、多くの市場で増収となりました。

03-2027年1月期第1四半期決算概要



セグメント別状況

プラスチック成形事業 AIを中心に半導体市場の需要が回復し、ウェーハ在庫調整は底打ちしたものとみられます

成形機事業 HEV回帰への方向性が明確になった自動車業界向けの需要は回復の兆しが見え、部品に関しても安定供給される状況が維持されました

(百万円)

	2026年1月期 第1四半期累計期間		2027年1月期 第1四半期累計期間		前年同期比	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	売上高	率(%)
プラスチック成形事業	2,918	92.7	3,558	89.3	+639	+21.9
成形機事業	231	7.3	428	10.7	+197	+85.4
合計	3,150	100.0	3,986	100.0	+836	+26.6

Copyright 2025 © Mirai Chemical Co., Ltd. All Rights Reserved 10

▲ミライアル 羽山様

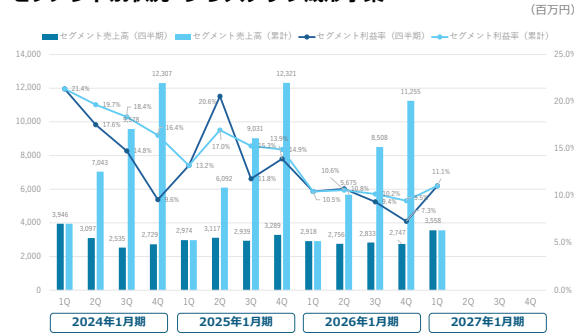
10ページはセグメント別状況です。まず、プラスチック成形事業についてですが、AIを中心に半導体市場の需要が回復し、ウェーハ在庫調整は底打ちしたものとみられております。成形機事業につきましては、ハイブリッド、EV回帰への方向性が明確になった自動車業界向けの需要は回復の兆しが見えまして、また、部品に関しましても安定供給される状況が維持されました。第1四半期におけるプラスチック成形事業は、売上高が35億5,800万円と、前年同期比でプラス21.9パーセント、金額にしますとプラス6億3,900万円の増収となりました。成形機事業につきましては、売上高が4億2,800万円、前年同期比プラス85.4パーセント、金額にしましてプラス1億9,700万円ということで、いずれも増収となりました。

決算説明

03-2027年1月期第1四半期決算概要



セグメント別状況 -プラスチック成形事業-



Copyright 2025 © Mirai Chemical Co., Ltd. All Rights Reserved 11

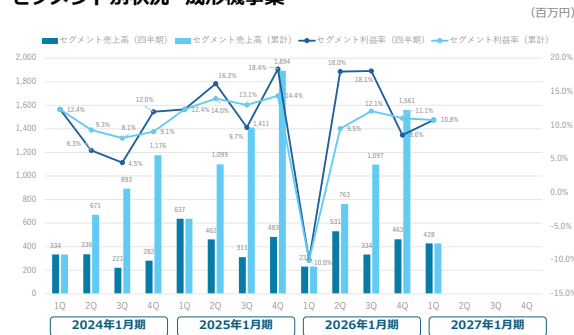
▲ミライアル 羽山様

11 ページは、プラスチック成形事業の収益推移です。当第 1 四半期は、過去 3 年と比べて、セグメントの売上高としては 2023 年第 1 四半期に次ぐ 2 番目に高い売上高となりました。セグメント利益率は、前期を底に 11.1 パーセントへとわずかに改善をいたしました。

03-2027年1月期第1四半期決算概要



セグメント別状況 -成形機事業-



Copyright 2025 © Mirai Chemical Co., Ltd. All Rights Reserved 12

▲ミライアル 羽山様

次に 12 ページですが、成形機事業の収益推移となります。当第 1 四半期は、セグメント売上高は 4 億 2,800 万円、セグメント利益率は 10.8 パーセントと安定して推移をしております。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

03-2027年1月期第1四半期決算概要



貸借対照表 (B/S)

(百万円)

資産の部	2026年1月期		増減	負債・純資産の部	2026年1月期		増減
	1月期	第1四半期			1月期	第1四半期	
流動資産	10,603	10,737	+134	流動負債	3,296	5,999	+2,703
現金及び預金	4,703	4,533	△169	仕入債務	1,528	1,880	+351
売上債権	3,069	3,469	+400	短期借入金	0	1,900	+1,900
棚卸資産	2,475	2,342	△132	その他	1,767	2,219	+451
その他	356	391	+35	固定負債	543	519	△23
固定資産	16,225	18,574	+2,349	負債合計	3,839	6,519	+2,679
有形固定資産	15,560	15,927	+366	株主資本	22,711	22,543	△168
無形固定資産	66	71	+4	内 利益剰余金	21,981	21,813	△168
投資その他の資産	598	2,576	+1,978	その他の包括利益累計額	277	249	△28
資産合計	26,829	29,312	+2,483	純資産合計	22,989	22,793	△196
				負債・純資産合計	26,829	29,312	+2,483
				自己資本比率	85.7%	77.8%	△7.9pts

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 13

▲ミライアル 羽山様

13 ページは貸借対照表です。初めに資産の部ですが、2026年4月30日に布谷船用計器工業の全発行済株式を取得し、子会社化したこと等によりまして、投資その他の資産が前期2026年1月期末比でプラス19億7,800万円増加しました。次に負債の部ですが、この株式取得のための当座貸越しに基づく短期借入金がプラス19億円発生しました。純資産の部ですが、親会社株主に帰属する当期純利益の内部留保のほか、配当金の支払いがあり、前期末比でマイナス1億9,600万円の減少となりました。

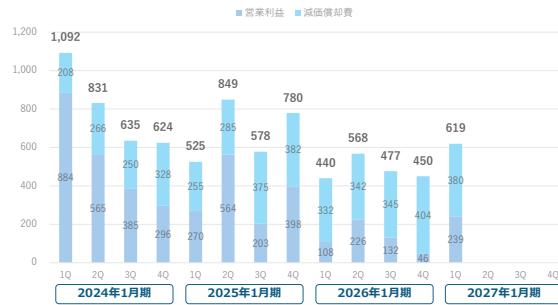
以上により、総資産につきましては293億1,200万円と前期末比でプラス24億8,300万円増加し、自己資本比率は77.8パーセントと、前期末比でマイナス7.9ポイント減少いたしました。

03-2027年1月期第1四半期決算概要



EBITDAの推移 (会計期間)

(百万円)



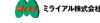
Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 14

▲ミライアル 羽山様

14 ページ目は、今回より開示を始めました EBITDA の推移です。当第1四半期の EBITDA は6億1,900万円となりまして、前期を底として改善傾向を示しております。

決算説明

04-2027年1月期第2四半期連結業績予想



業績予想

- 売上高につきましては、プラスチック成形事業は、半導体市場において、AIを中心とした先端品の需要が旺盛な一方で、既存品の需要回復には一定の時間を要しているなか、緩やかな回復基調が継続するものと見込まれます。成形機事業は、自動車業界のHEV回帰への方向性が明確になってきたことにより、特に海外での動きが活発化の兆しがあり、受注状況は緩やかに回復していくと見込まれます
- 営業利益および経常利益につきましては、プラスチック成形事業・成形機事業とも売上高が増加し、これに伴う生産効率の改善により、前年同期実績に対し増益となる見込みです

(百万円)

	2026年1月期 第2四半期 (実績)	2027年1月期 第2四半期 (予想)	前年同期比 (%)
売上高	6,340	7,970	+25.7
営業利益	334	480	+43.7
経常利益	362	500	+38.1
親会社株主に帰属 する当期純利益	283	360	+26.9

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 15

▲ミライアル 羽山様

15 ページ目ですが、第 2 四半期の業績予想となります。事業環境としましては、まず売上高ですが、プラスチック成形事業は、半導体市場において AI を中心とした先端品の需要が旺盛な一方で、既存品の需要回復には一定の時間を要しておりますが、緩やかな回復基調が継続するものと見込まれます。成形機事業につきましては、自動車業界のハイブリッド、EV 回帰への方向性が明確になってきていることにより、特に海外での動きが活発化の兆しがあり、受注状況は緩やかに回復していくと見込まれております。営業利益及び経常利益につきましては、プラスチック成形事業、成形機事業ともに売上高が増加し、これに伴う生産効率の改善により、前年同期実績に対して増益となる見込みであります。

以上により、当第 2 四半期につきましては、売上高が 79 億 7,000 万円と、前年同期比プラス 25.7 パーセント、金額にしまして 16 億 3,000 万円の増収。営業利益につきましては 4 億 8,000 万円、前年同期比でプラス 43.7 パーセント、金額にしましてプラス 1 億 4,600 万円の増益。経常利益につきましては 5 億円と、前年同期比プラス 38.1 パーセント、金額にしまして 1 億 3,800 万円の増益。親会社株主に帰属する当期純利益は 3 億 6,000 万円と、前年同期比プラス 26.9 パーセント、金額にしましてプラス 7,700 万円の増額となる予想です。

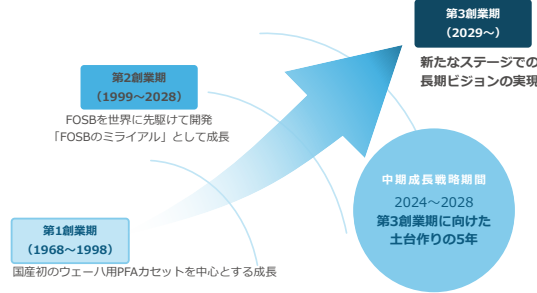
決算説明

05-中期成長戦略への取り組み



当社の発展段階と中期成長戦略の位置づけ

中期成長戦略の期間は、新たなステージで長期ビジョンを実現するための土台づくりの5年間と位置づけ、覚悟を持って変革に取り組んで参ります



Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 16

■ミライアル 兵部様

冒頭言及いたしました通り、2028年の設立60周年以降を第3創業期と位置付けまして、そこに至る足元5年間をその土台づくりの期間として長期成長戦略を推進しております。

戦前の家内工業としての創業から、中小企業、大企業、そして株式会社となり、事業承継、MBOを経てのJASDAQ上場と、これまでミライアルは環境に応じて形を変えてまいりました。残り2年半の中期成長戦略期間におきましては、資本市場からの要請を踏まえた経営への転換、そして、持続的かつ安定的成長を実現する事業ポートフォリオ変革の実現を目指してまいります。また、企業文化を変革し、社会にずっと必要とされるミライアルグループになるため、全従業員の手で企業カルチャーを再構築してまいります。

05-中期成長戦略への取り組み

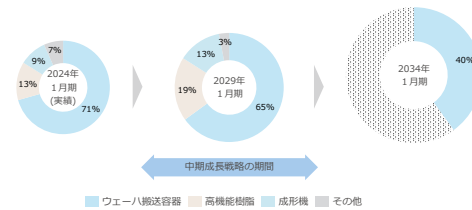


第3創業期に向けた事業ポートフォリオの変革

売上の7割をシリコンウェーハ搬送容器が占める事業ポートフォリオを変革し、2029年度以降の安定的な成長基盤を確立します

10年後に目指す事業ポートフォリオ (売上高)

2033年度にシリコンウェーハ搬送容器以外の第2、第3の柱を構築します



Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 17

■ミライアル 兵部様

新たなステージに向けての重要な取り組みの1つが、第3創業期に向けた事業ポートフォリオ変革です。売上高の大半をシリコンウェーハ搬送容器が占める事業ポートフォリオは、今後も成長が期待される場所ではありますが、しかし一方で、半導体市況の影響を受けやすい懸念もございます。

現業をより強く、より深く、こういったことに向けての努力を徹底すると同時に、半導体業界以外の成長分野にも事業ポートフォリオを拡大することで第2、第3の本業を構築し、2029年以降の安定的な成長の基盤を構築してまいりたいと思っております。

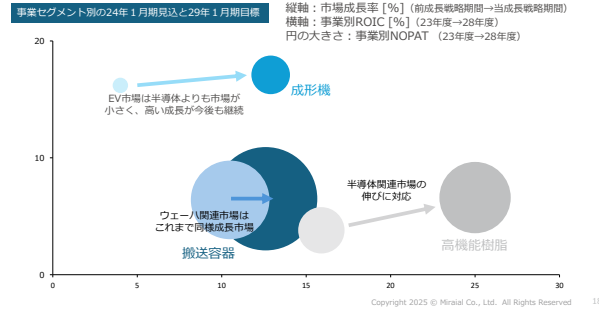
決算説明

05-中期成長戦略への取り組み



事業ポートフォリオに関する方針

現在の主力であるシリコンウェーハ搬送容器事業を深耕しつつ、成長市場での事業拡大が見込める高機能樹脂製品、成形機の事業に経営資源を振り向けます



■ミライアル 兵部様

事業ポートフォリオ拡大のイメージはこちらの資料の通りでございます。

05-中期成長戦略への取り組み



中期成長戦略の数値目標

- 中期成長戦略の最終年度の2028年度（2029年1月期）に、売上高239億円、ROE11%を目指します
- 前期（2026年1月期）から、新たに配当性向の指標を「総還元性向またはDOE」に見直し、株主還元を強化します

	2024年1月期実績	2029年1月期計画
売上高	132 億円	239 億円
営業利益	15 億円	47 億円
営業利益率	11.5 %	20.0 %
ROE	4.8 %	11.1 %
総還元性向 DOE	「総還元性向30%またはDOE2%」 のいずれか高い方を下限とした安定配当	

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 19

■ミライアル 兵部様

中期成長戦略最終年度の2029年1月期（2028年度）における数値目標は資料の通りございまして、これは当初から変えておりません。半導体市場及び自動車市場のオーガニック成長と、M&Aを活用したインオーガニックな成長をバランスよく組み合わせ、残り2年半の期間での目標達成を目指してまいります。なお、配当につきましては、当初、配当性向30パーセントを目標とする安定配当という風に目標を掲げておりましたが、これを昨年12月の第3四半期決算発表の際に、総還元性向30パーセントまたはDOE(株主資本配当率)2パーセントのいずれか高い方を下限とした安定配当ということに変更しております。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

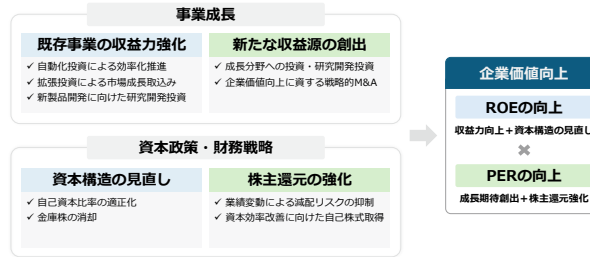
決算説明

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



企業価値向上に向けた新たな取り組み

今年度(2026年1月期)から企業価値向上に向けた新たな取り組みとして、更なる収益力強化による事業成長と市場からの要請に沿った資本政策・財務戦略の両輪を通じて、ROEとPERの向上を促進し、PBR1倍超を恒常的に達成するとともに、中長期的な企業価値の最大化を目指します



Copyright 2025 © Miraiol Co., Ltd. All Rights Reserved 20

■ミライアル 兵部様

ミライアルにとって重要な課題であります企業価値向上につきましては、事業成長と資本政策、財務戦略のバランスを取りながら両輪で改善し、ROEとPERの向上を目指すことで企業価値を向上させます。そして、結果としてのPBR1倍を恒常的に超える経営を目指してまいります。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



企業価値向上に向けた取り組みを実現するための新経営体制

持続的な成長と中長期的な企業価値の最大化に向け、経営機能と執行機能の双方を強化し、経営資源の適切な配分を通じた成長投資の促進を実行します

【取締役】

氏名	新役職
兵部 匡俊	代表取締役社長
羽山 哲生	取締役
後藤 豊	取締役(社外)
野間 幹晴	取締役(社外)
松永 夏也	取締役 常勤監査等委員(社外)
木部 永二	取締役 常勤監査等委員
源達 寛	取締役 監査等委員(社外)

【執行役員】

氏名	新役職
兵部 匡俊	社長執行役員 CEO
野口 高史	常務執行役員 CTO 技術本部長
羽山 哲生	執行役員 CFO 経営企画・管理本部長
須田 隆英	執行役員 CMO 高機能樹脂製品事業本部長
三保 鉄平	執行役員 容器製品事業本部長
青田 謙一	執行役員 生産本部長

※1 2025年4月より、組織を機能別の本部組織に整理することにより、各組織の役割と責任を明確にすること、経営機能と執行機能の双方を強化することを目的として、本部制を導入。2026年4月以降は、市場に合わせ製品群ごとに組織を見直し、本部の新設および統合を実施

※2 2026年4月よりCoO制を導入し、専門性の強化、迅速な意思決定、競争力の向上、コーポレートガバナンスの強化、中長期的には企業価値の最大化を実現

Copyright 2025 © Miraiol Co., Ltd. All Rights Reserved 21

■ミライアル 兵部様

新たなミライアルの改革を実現するため、今年4月の株主総会をもって経営体制を刷新いたしました。経営機能と執行機能を強化、分離する体制に変えると同時に、資本政策、財務戦略を中心とした経営全般に深い知見を持つ、野間 幹晴一橋大学大学院経営管理研究科教授を招聘いたしました。高いレベルのガバナンスを基礎としながら、取締役と執行役員が1つの方向を向いて団結し、専門的かつ迅速な意思決定を図ることで、中長期的な企業価値の最大化を目指してまいります。

決算説明

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



事業成長に向けた取り組みの重点

搬送容器事業	半導体市場の活況を念頭に、来るべきウエーハ出荷量の伸長時の増産体制整備
高機能樹脂事業	機能統合した東北新工場への生産移管・生産量拡大、新市場開拓
成形機事業	ミライアル向けブロー成形機の稼働実現、EV向け成形機の開発・拡販

	更なる収益力強化に向けた課題認識	重点取り組み方針	
搬送容器事業	<ul style="list-style-type: none"> [FOSB/FOUP] … 熊本事業所の生産ラインの自動化による収益率の向上 [FOUF] … クリーン化技術、大型～小型成形ラインアップを活かした受注獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 市況が転じた場合に増産可能な体制整備・生産量の拡大 半導体業界の「後工程」領域に向けた付加価値製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 既存強化 新収益源
高機能樹脂事業	<ul style="list-style-type: none"> 熊本・山口・東北3事業所の生産機能を東北に統合、統合した新工場の稼働率向上に向けた、高機能製品の生産移管および生産量の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる高機能製品の生産移管 新市場開拓 (M&Aを含む新製品開発・研究開発) 	<ul style="list-style-type: none"> 既存強化 新収益源
成形機事業	<ul style="list-style-type: none"> ミライアル向けに開発した新分野成形機稼働実現 EV向け封止用トランスファー成形機等の開発推進 	<ul style="list-style-type: none"> EV向け成形機の継続的な開発・拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 新収益源

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 22

■ミライアル 兵部様

22 ページ、事業成長に向けた具体的な取り組みの骨子をご覧の通りでございます。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



資本政策・財務戦略

資本コストの適減と資本効率の向上を実現するために資本政策・財務戦略の方針を見直します

	～2025年1月期	2026年1月期～	見直しの狙い
資本構成の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 借入を行わず、高い自己資本比率を維持 	<ul style="list-style-type: none"> 有利子負債を活用し、財務レバレッジを効かせた最適な資本構成への転換を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 資本コストの適減 財務レバレッジの活用 ROEの向上
株主還元の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 金庫株 積極的な消却は未実施 	<ul style="list-style-type: none"> 役員報酬等の必要株数以外の株式は消却する 	<ul style="list-style-type: none"> 株式希薄化リスクの排除 EPS、BPSの向上
株主還元の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向30%を目安とした安定配当 	<ul style="list-style-type: none"> 単年度利益に対する配当性向の安定化ではなく、配当額の安定化と強化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場のボラティリティに左右されない配当安定化
株主還元の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式取得 役員報酬のための取得のみ 	<ul style="list-style-type: none"> 中期成長戦略期間中に発行済み株式総数の3%程度を目安とした継続的な自己株式取得を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 資本効率性の向上 株主への還元強化

資本コスト適減・資本効率向上による最適な資本構成の達成を実現

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved 23

▲ミライアル 羽山様

23 ページ目は、資本政策、財務戦略となります。企業価値向上に向けた取り組みにおきまして、市場からの要請に沿った資本政策、財務戦略として、資本構成の見直しと株主還元の強化を強力に推進いたします。

資本構成の見直しにおきましては、まず、有利子負債を活用し、財務レバレッジを利かせた最適な資本構成への転換を図り、資本コストの低減を通じて ROE の向上を狙います。先週 6 月 1 日に開示しましたシンジケートローン契約の締結につきましては、この施策の実行第 1 弾となります。

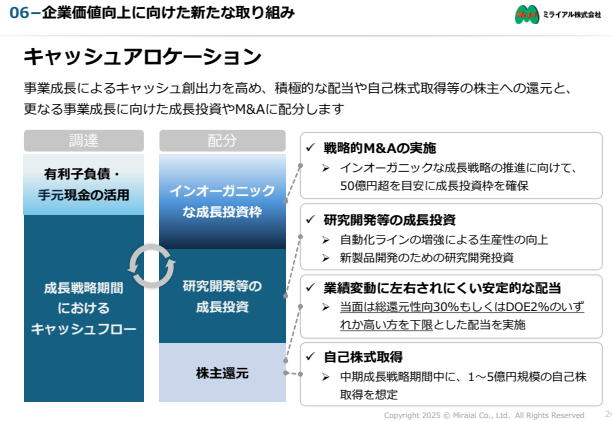
次に金庫株ですが、役員報酬等の必要株数以外の株式を消却し、株式希薄化リスクの排除と EPS、BPS の向上を狙います。金庫株 101 万株の消却につきましては、先週 6 月 1 日開催の取締役会において決議、開示させていただきます。

株主還元の強化におきましては、配当方針について、単年度利益に対する配当性向の安定化ではなく、総還元性向 30 パーセントまたは DOE2 パーセントのいずれか高い方を下限とした配当額の安定化と強化を図り、半導体市場のボラティリティに左右されない配当の安定化を導入いたしました。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

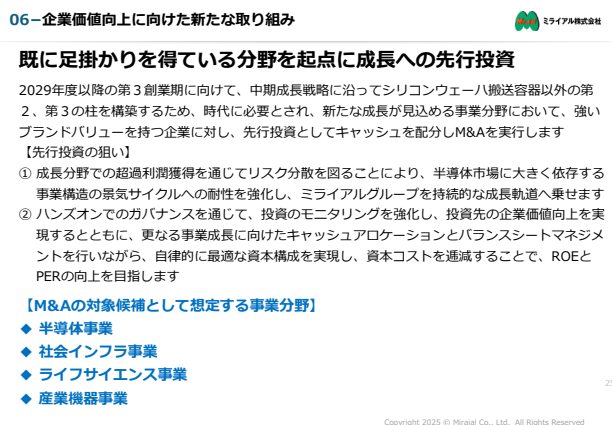
最後に自己株式の取得ですが、発行済み株式総数の3パーセント程度を目安とした継続的な自己株式取得を実施し、資本効率性の向上と株主への還元強化を図ります。今般、50万株または5億円を上限とする自己株式の取得につきまして、先週6月1日開催の取締役会において決議・開示いたしました。



▲ミライアル 羽山様

次に24ページですが、キャッシュアロケーションとなります。先ほどご説明しました、さらなる収益力強化による事業成長でのキャッシュ創出力、これを高めまして、積極的な配当や自己株式取得等の株主への還元と、さらなる事業成長に向けた成長投資やM&Aに配分いたします。

資金調達面では、成長戦略期間におけるキャッシュフローと有利子負債、手元現金を活用し、足元進めている自動化ラインの増強による生産性の向上や、新製品開発のための研究開発投資などの成長投資、また、インオーガニックな成長としまして、50億円超を目安とした戦略的M&Aの実行を進めてまいります。同時に、先ほどご説明した株主還元についても強化をしていきます。



■ミライアル 兵部様

中期成長戦略におきまして、事業ポートフォリオを拡大しますことは、ミライアルにとって重要な意味を持つと思っております。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

1つは、経営の安定に資するということ。そしてもう1つは、異なる知識を取り込むことで、既存組織が前向きな刺激を受けるといったことです。半導体あるいは樹脂、こういったこれまでの知識範囲を超えたイノベーションのきっかけを作るためにも、企業カルチャーを変革するためにも、これまでにない知を積極的にグループ内に取り込む必要があるという風に私は考えております。この意味におきまして、M&Aは、ミライアルの経営の安定化と活性化、この両面で不可欠な手段と認識しております。以前開示いたしました通り、M&Aの対象候補の事業分野としてご覧の4つを想定し、中期成長戦略期間中に積極的に取り組んでまいります。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



布谷船用計器工業株式会社の株式取得（連結子会社化）

2026年4月30日、布谷船用計器工業（本社：大阪府大阪市）の発行済株式の全てを取得しました。本株式取得に伴い、布谷船用計器工業の子会社である株式会社布谷計器製作所（本社：兵庫県尼崎市）、大阪布谷精器株式会社（本社：大阪府大阪市）の計2社が当社の孫会社になる予定です
みなし取得日は2026年6月末日（予定）、同社を連結子会社化し、2027年1月期第3四半期の連結損益計算書より同社グループの損益が取り込まれる予定です
布谷船用計器工業は、磁気コンパスをはじめとする船用航海計器の分野において長年の技術と実績を有し、船舶の安全航行を支える製品を国内外の造船所および海軍関連企業に提供してきました。同社は、我が国における重要なインフラ産業である海事業界において高い技術力と独自性を有するニッチトップ企業であり、自社ブランドを有する点において当社が大切にしたいこだわりと高い親和性を有しています
日本の造船・海事産業は我が国の基幹産業の一つとして、国家戦略産業として競争力強化に向けた様々な取り組みが進められています。また近年、環境規制の強化や次世代船舶の開発などを背景に、船舶機器分野における技術革新の可能性が高まっています。当社が有する高機能樹脂成形加工技術や精密切削加工技術を活用することで、船用機器分野における製品高度化や新たな製品開発の可能性を検討し、ミライアルグループとして、新たな価値創出と持続的な成長を目指します
※本件に伴う連結業績および財務状況に与える影響につきましては現在精査中であり、今後公表すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved

■ミライアル 兵部様

そのM&Aでございますが、第1号案件を先日、4月20日に開示をいたしましたところでございます。布谷グループ3社はですね、船用航海・計器分野で長年の技術と実績、そして信頼を有しております。日本の造船・海事産業は、我が国の基幹産業の1つとして、国家戦略産業として競争力強化に向けた様々な取り組みが進められているところございまして、その中で、高い技術力と独自性、そして何より自社ブランド製品を持つ布谷グループの成長可能性は十分にありと認識しております。既存のミライアルグループの製品と布谷グループの製品は一見連続性がないように見えますが、しかし、デューデリジェンス等で調査を重ねる過程で、いわゆる知識体系の連続性、これはあるというふうに判断をするに至りました。現在、私と羽山を含むハンズオンでのPMI（解体・統合プロセス）の過程におりますけれども、すでに技術陣同士の交流も始めさせておりまして、新たな知と新たな知の融合が始まろうとしています。

我々が基とするM&Aはまさにこういったものでございまして、表面的に異なる分野でありながらも、深いところで共通の知が生み出される案件を紡いで、事業ポートフォリオを強く広く変革していきたい、こういうふうに考えております。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

決算説明

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



シンジケートローン契約締結

布谷船用計器工業の発行済株式の取得のための当座貸越に基づく借入金の借換資金を資金使途として、2026年6月9日、株式会社三菱UFJ銀行をアレンジャー、株式会社みずほ銀行をジョイント・アレンジャーとするシンジケートローン契約を締結し、同年6月12日、借り入れる予定ですがこれにより、有利子負債を活用し、財務レバレッジを効かせた最適な資本構成への転換を図ります【シンジケートローン契約の概要】

(1)形式	タームローン
(2)組成総額	1,900百万円
(3)最終返済期日	2036年4月30日
(4)適用金利	基準金利+スプレッド
(5)担保・保証	無担保・無保証
(6)参加金融機関	株式会社三菱UFJ銀行、株式会社みずほ銀行、株式会社三井住友銀行、株式会社肥後銀行
(7)財務制限条項	1. 2027年1月期決算以降、各年度の決算期末日における連結純資産の部の金額を、直前の決算期又は2026年1月決算期末日における連結純資産のいずれか大きい方の75%以上に維持すること 2. 2027年1月期決算以降、各年度の決算期および直前の決算期において、それぞれ2期連続して連結損益計算書上の経常損失を計上しないこと

▲ミライアル 羽山様

27 ページ目は、シンジケートローンの契約締結です。先ほどご説明しました布谷船用計器工業の発行済株式の取得のための当座貸越しに基づく借入金の借換資金を資金使途として、2026年6月9日、株式会社三菱UFJ銀行をアレンジャー、株式会社みずほ銀行をジョイントアレンジャーとし、株式会社三井住友銀行、株式会社肥後銀行にもご参加いただき、組成総額 19 億円、最終返済期日 2036 年 4 月 30 日のシンジケートローン契約を締結し、同年 6 月 12 日に借り入れる予定としております。これによりまして、有利子負債を活用し、財務レバレッジを利かせた最適な資本構成への転換を図ってまいります。シンジケートローン契約の概要は記載の通りとなります。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



自己株式の取得および自己株式の消却

2026年6月1日開催の取締役会において、自己株式を取得すること、および自己株式の消却をおこなうことを決議しました

【取得に係る事項の内容】

- (1) 取得する株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 : 500,000株 (上限)
- (3) 株式の取得価額の総額: 5億円 (上限)
- (4) 取得期間 : 2026年6月8日~2027年1月31日
- (5) 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付

【消却に係る事項の内容】

- (1) 消却する株式の種類: 当社普通株式
- (2) 消却する株式の総数: 1,010,000株
- (3) 消却予定日: 2026年6月8日

<ご参考> 2026年4月30日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数(自己株式を除く) : 9,038,215株
自己株式数 : 1,081,785株

▲ミライアル 羽山様

次に 28 ページ目ですが、自己株式の取得及び自己株式の消却です。2026年6月1日開催の取締役会におきまして、自己株式の取得と消却を行うことを決議いたしました。取得する自己株式は、株式総数 50 万株を上限、取得価額の総額は 5 億円を上限とし、2026年6月8日より 2027年1月31日を取得期間といたします。消却する自己株式は、株式総数 101 万株、消却日は 2026年6月8日となります。

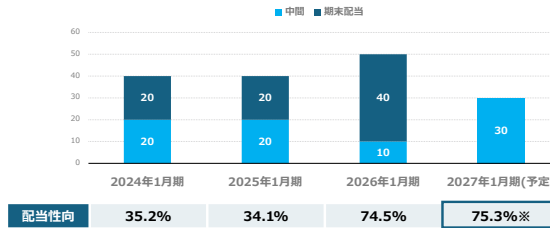
決算説明

07-配当について



配当金の推移

- DOE基準を導入し、半導体市況のボラティリティに左右されない配当額の安定化を図ります
- 27年1月期の中間配当は30円の配当を予定します（配当性向75.3%、DOE1.18%に相当し、DOEは通期で2%超を前提としています※）



※ 2027年1月期第2四半期連結業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益に基づきます

Copyright 2025 © Mirai Co., Ltd. All Rights Reserved 29

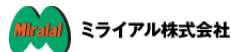
▲ミライアル 羽山様

次に29ページですが、配当金の推移となります。先ほどご説明の通り、新たにDOE基準を導入し、半導体市況のボラティリティに左右されない配当額の安定化を図ります。2027年1月期の中間配当は、30円の配当を予定しております。

■ミライアル 兵部様

はい、ご説明は以上でございます。ご清聴、誠にありがとうございます。

東証スタンダード | 4238



ミライアル株式会社

2027年1月期 第1四半期 決算説明資料

～質疑応答～
コントロールパネルのQ&A機能より
ご入力をお願いいたします。

3分ほどお待ちいたします。

●司会

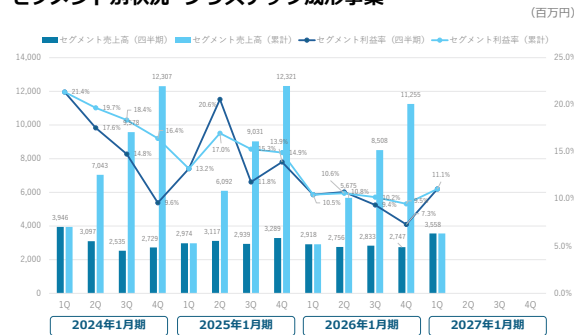
それでは、これより質疑応答に移ります。質疑応答は、コントロールパネルのQ&A機能よりテキスト形式にて受付いたします。記入のお時間として3分ほど設けさせていただきます。

質疑応答

03-2027年1月期第1四半期決算概要



セグメント別状況 -プラスチック成形事業-



Copyright 2025 © Mirai Chemicals Co., Ltd. All Rights Reserved 11

★質問

FOSB (フォスブ) FOUP (フープ) の第1四半期実績の動きと今後の見方についてお願いします。

▲ミライアル 羽山様

FOSB、FOUPですが、前年同期で見ますと、いずれも増加しております。具体的な数字につきましてはこの場では申し上げられませんが、特にFOUPにつきましては大幅増加という形で、今回、第1四半期で収益認識をしております。

■ミライアル 兵部様

今後についての見方をご質問いただいておりますが、第2四半期の予想につきましても、本日合わせて開示をさせていただいたところでございます。引き続き出荷容器、ウェーハの需要というものが堅調であるのではないかとこの前提でお出ししたところでございますので、第2四半期につきましても、引き続きこの調子が続いていくのではないかとこの前提に立っているところでございます。

★質問

冒頭のご説明で、半導体関連製品の需要で、中東情勢に関連する調達確保とAIに関する成長需要が混在している印象とのことでしたが、第1四半期と第2四半期の売上は大体同じくらいで予想されています。第1四半期と第2四半期の肌感的なところで、違いが出てきているようであれば教えて頂けますか。

ミライアル株式会社 | 2026年6月24日(水)
4238 東証スタンダード 化学

質疑応答

■ミライアル 兵部様

先ほど1つ目のご質問のところでも申し上げました通り、第2四半期にかけて引き続き堅調な予想をしておるところでございます。ただ、開示数字だけをご覧くださいと、第1四半期と第2四半期の売上が大体同じくらいではないかというご指摘、これが主なところかと思っております。ここに関しましては、現在、社内の工場での製造体制を少し調整しているところがございます、堅調な需要に合わせてフォーメーションを変えている最中です。そこに少しお時間をいただいているという背景があり、このような数字（横ばいの予想）になっております。

背景となっている需要の強さの肌感覚でございますが、ここに関しては、第1四半期に比べたら第2四半期の方が強めかなという印象を受けております。したがって、早くこのフォーメーションを整え、製造ラインを整えて、需要にお応えする体制を作っていかなければならないというのが、現在の足元の状況でございます。

06-企業価値向上に向けた新たな取り組み



自己株式の取得および自己株式の消却

2026年6月1日開催の取締役会において、自己株式を取得すること、および自己株式の消却をおこなうことを決議しました

【取得に係る事項の内容】

- (1) 取得する株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 : 500,000株 (上限)
- (3) 株式の取得価額の総額 : 5億円 (上限)
- (4) 取得期間 : 2026年6月8日~2027年1月31日
- (5) 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付

【消却に係る事項の内容】

- (1) 消却する株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 消却する株式の総数 : 1,010,000株
- (3) 消却予定日 : 2026年6月8日

<ご参考> 2026年4月30日時点の自己株式の保有状況
発行済株式総数(自己株式を除く) : 9,038,215株
自己株式数 : 1,081,785株

Copyright 2025 © Mirai Al Co., Ltd. All Rights Reserved

★質問

中期経営計画での自社株買いは5億円とのことですが、今年度5億円の自社株買いを実施したのち、来年度以降も低PBRが継続していれば、追加の自社株買いを検討するのでしょうか。

▲ミライアル 羽山様

ご質問の点につきましては、現時点で決まった事実については一切ございません。一方で、これまでご説明させていただきましたように、弊社といたしましては、ROEとPERの向上を促進し、PBR1倍超を恒常的に達成するような形に会社を持っていきたいと考えております。すなわち、企業価値向上に向けた取り組みを継続するというところでございますので、当然、ご質問の点につきましても選択肢の1つにはなっております。この点につきましては、今後の検討課題とさせていただきたいと思っております。

●司会

ご質問いただき、誠にありがとうございました。

それでは、定刻となりましたので、以上をもちましてミライアル株式会社2027年1月第1四半期決算説明会を終了させていただきます。

本日はご多忙の中、最後までご視聴いただきまして誠にありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp